

ICEルーブリック研究会

# DXとICEを考える

2022年3月26日（土） 13:30~15:45

オンライン開催

主催：



**主体的学び研究所**

2022.3.4

# ICEルーブリック研究会 DXとICEを考える

ICEルーブリック研究会は、これまでICEモデル／ICEルーブリックを評価と学習が一体化した学びを実現するツールとして研究を進めてきました。DX(デジタルトランスフォーメーション)に直面し、これまでのICEでの学びを振り返る機会が多くなりました。

そこで、今回の研究会は、「DXとICEを考える」としました。以下に、その趣旨を述べます。

DXとは、「デジタル化による効率改革ではなく、デジタルの仕組みにより、既存の枠組みを根本的に変える構造改革をもたらす、あるいは新しいサービスを生み出す」ことを指します。したがって、デジタル化だけがその目的ではありません。

文科省も「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」によるDXを全面的に打ち出しています。ここでは、「学修者本位の教育の実現」によって、学びの質の向上を目指しています。文科省の「学修者本位の教育の実現」とは、「遠隔授業による成績管理を発展し、学修管理システム(LMS)を導入して全カリキュラムにおいて学生の習熟度等を把握。蓄積された学生の学修ログをAIで解析し、学生個人に最適化された教育(習熟度別学修や履修指導等)を実現」する狙いがあります。

これは、教育のデジタル化に直結するものではありませんが、その恩恵を受けて、「学修者本位の教育の実現」につなげるというものです。

ICEにも同じことがいえます。新たにDXというアイデアを取り込むことで、何かICEのトランスフォーメーション(変革)ができないかと考えています。

実は、ICEモデルの著書の原書では、**ICEアプローチ**というタイトルなっています。したがって、ICEのDXへのアプローチを考えることは意義があると思います。

ICEは、本来、デジタルやICTとはつながりにくいと考えられますが、ICEをデジタル化するわけではありません。**デジタルやICTの恩恵を受けて、新たなICEを生み出す、それがICEのDXへのアプローチだと考えます。**

本研究会では、学修管理システム(LMS)などを活用することで、これまでにない、ICEのアプローチができないかを議論したいと思います。たとえば、ICEにもとづいたオンライン授業シラバスの作成やオンラインICEルーブリックなど、新たな「学修者本位の教育の実現」ができないか議論したいと考えています。

# 概要

- ▶ 日程：2022年3月26日（土）13：30～15：45
  - ▶ アフターFD：今後の活動案内と募集 16：00～17：00（希望者のみ・出入り自由）
- ▶ 形式：オンライン開催（ブレイクアウトセッションに参加できる方）
- ▶ 対象者：教育関係者
- ▶ 会費：無料
- ▶ 条件等：ICEモデルが初めての方も大丈夫です。なお、事前に書籍や当研究所Hをご覧になっておくことをお勧めします。詳細は次ページをご覧ください。
- ▶ 講師&ファシリテーション：土持ゲーリー法一先生  
(京都情報大学院大学副学長・教授、主体的学び研究所顧問)
- ▶ 事前申し込み制：allinfo(ここにアットを入れてください)activellj.jp 宛に①～⑥を記入のうえ、メールでお申し込みください
  - ①お名前 ②ご所属・職業・職位 ③メールアドレス
  - ④連絡先電話番号（当日および日中連絡可能な番号）
  - ⑤ICEモデル、ICEルーブリックのご経験（未経験、本を読んだことがある、実践中など）
  - ⑥ご質問、連絡事項など

# 参考資料（初めての方は、下記のいずれかをあらかじめご覧になっておくと、勉強会での理解が深まります。）

★動画『原著者 Sue F. Young 先生による出版記念講演会』（日本語字幕付き）弊研究所HP

[https://www.activellj.jp/?page\\_id=494](https://www.activellj.jp/?page_id=494)

★書籍『主体的学びにつなげる評価と授業方法』（東信堂）

▶ [https://www.activellj.jp/?page\\_id=494](https://www.activellj.jp/?page_id=494)

※書店での在庫が僅少あるいは品切れになっています。弊研究所の在庫をご用意しますので、メールにてご相談ください。

★「主体的学びとは何か」～『主体的学び』を促すゲーリー先生の“Connecting the Dots”コラム～ 弊研究所HP

4. 「主体的学び」とICEルーブリック

1 3. 「コロナ禍でのICEルーブリック研究会（1）」

1 4. 「コロナ禍でのICEルーブリック研究会（2）」